に、図書館員同士の交流ができたことこそ、スキルアップの第一歩であり、大変有意義な時間であったように思う。

グループ討議報告 情報検索4：各図書館が共通して抱える情報検索についての問題（グループ討議から見てきたこと）

櫻井 美子*

横浜市中心図書館

I. はじめに

私たちのグループでは「情報検索」を議題として話し合いを進めました。グループには、大学図書館、病院図書館（室）、学校図書館、公共図書館、データベース作成に関わる方、そして規模も大規模から図書館員1人の小規模図書館まで、多岐に渡る館種のメンバーが集まりました。

II. 討議内容と見てきた共通問題

討議は「情報検索」について日頃の悩み、問題として感じていることを共有することから始めました。当然のことながら館によって悩み、問題点はさまざまです。しかし、話し合いを進めるうちに、討議のキーワードとなるものが見えてきました。以下、討議の中で出た意見を具体的に紹介していきしたいと思います。

大学図書館、病院図書館（室）では、利用者からの最も多い依頼は、決められたテーマでの文献探索と文献の取寄せです。図書館員の役割としては、検索の手伝い、データベースの使い方、思ったような検索結果が得られないときのアドバイスなどです。その場での迅速な検索が必要になり、プレッシャーを感じることもあるそうです。この2つの館種では、データベースがとても重要だということが分かります。

小規模図書館では、予算の関係で新しい資料を購入できず、最新の情報を提供することができないことを問題点としていました。また、公共図書館も必ずしも最新の医療資料や専門書を取り揃えることはできない状態で

す。それでも最新の情報を求めてくる利用者はいます。ここでもキーとなってくるのがデータベース。物理的な資料が足りない分、最新情報をデータベースで検索し、他館から取寄せをします。

医学図書館では、データベースが重要、だからこそ抱える共通の悩みがありました。グループ内には司書ではない方、また図書館業務以外にも仕事を抱えている方がおり、通常業務の中でデータベース検索を習得することが難しいということです。また不慣れな英語論文の検索に加え、英語の専門用語にも苦勞しているということでした。そして何より、利用者だけではなく図書館員もデータベースの使い方が甘いという認識を持っていました。

III. 共通問題に対する解決策

以上のように、館種や規模が異なっても課題として共通認識しているのは、データベースに関する経験と知識でした。そこで、これまでの反省、今回の研修で得たデータベースに関する知識を通して、どのようなことが医学図書館員に必要なか、また自分たちの資質を高めていくのに必要なことを考えました。

今までを振り返り、ほぼ全員に共通していえたことが、自己流でデータベースを使っていたということでした。今回の研修ではひとりでは学べないような複雑な検索式を学ぶことができました。この知識をこのままにせず、マニュアルを作成したり部署内で自ら講師になり研修することで、能力をキープしていくとともに、積極的に利用者や同僚への教育をしていくことが必要だと確認しました。また、検索にはシソーラスが重要であることも学びました。情報検索の第一歩は探している事項についてキーワードを立てることですが、医学の専門家ではない

*Yoshiko SAKURAI：〒220-0032 神奈川県横浜市西区老松町1.
(2008年9月28日 受理)

利用者を持つ学校図書館や公共図書館では、利用者自身知りたいことが曖昧でキーワードが立てられないことがあります。利用者の話を聞き、良いキーワードを与えられるかどうかが図書館員の重要な役割です。より良いキーワードを立てる際に役に立つのがシソーラスです。シソーラスを使うことで検索結果の幅を広げることができることを学びました。そして、シソーラスを使いこなすためには、ある程度の疾患名を英語で頭の中に入れておくことが必要であり、データベース自体の検索スキル以外でも努力が必要であるという認識を持ちました。

Ⅳ. 最後に

このディスカッション全体を通して感じたことは、どの図書館も決して十分と言える状態で開館しているわけではないということでした。それぞれの問題を抱え、限られた環境の中で開館しています。限られた環境の中でいかに多くの情報を利用者に提供できるかどうかは、データベースでも検索する人間により得られる結果が異なるように、図書館員の資質にかかっているのだなと実感しました。

グループ討議報告 図書1：選書、予算、スペースの問題を共有して

岡田 裕美*

獨協医科大学越谷病院図書室

平成20年8月6日～8日に開催された第15回医学図書館員基礎研修会に参加しました。研修会は、講習会とグループ討議の二部から構成されておりました。

グループ討議のテーマは、事前に用意された五つの中から参加者各自が選択することになっており、私は「図書」のテーマを選択しました。図書のグループは二つに分かれており、私は「図書1」に配属されました。

「図書1」の参加者は医科大学図書館3名、病院図書室1名、国会図書館1名、民間図書館1名の6名で構成されておりました。その中で事前にグループリーダーに任命されていた私は、不慣れなこともあり緊張の連続でしたが、皆さんの協力のおかげで何とか討議を進行させることができました。

3日目に発表するテーマはグループごとに決めるため、まず、事前アンケートで各々が提示した疑問点について話し合いました。そして、この他に、選書、分類、装備などのテーマについて各図書館の現状を報告してもらいました。その結果、グループとしての発表テーマは、皆が共有する選書、予算、スペースの問題とすることに

なりました。

まずは選書、予算の問題です。どこの図書館も図書購入の予算で苦勞しています。特にここ2、3年は外国雑誌の値上がり幅が大きく、そうかと言って電子ジャーナルも高額なため、実質的な購入予算は増加するどころか、削減に向かっているような印象を受けます。

しかし、そのような厳しい現実の中で利用者のニーズに応え、かつバランスのとれた蔵書構成にしなければなりません。現在、どのような方法で選書を行っているのか、グループ討議で明らかになった各図書館の取り組みを以下に述べます。

- ・各講座から購入希望図書リストを提出してもらい、それと図書館からの購入希望図書リストを図書委員会に諮り、購入図書を選ぶ。予算が残った場合、新刊や改訂版などの購入にまわす。
- ・利用者からのリクエストを参考にする。
- ・見計らいを基本とし、そのうえで図書館員が選書する。
- ・カタログなどを幅広く見て、偏りがないように選書する。

以上に加え、購入時にはコスト抑制の努力がされています。

- ・複数の書店から相見積をとる。

*Hiromi OKADA : 〒343-8555 埼玉県越谷市南越谷2-1-50.
Tel.048-965-9157 Fax.048-965-1128 okada@dokkyomed.ac.jp
(2008年9月24日 受理)